

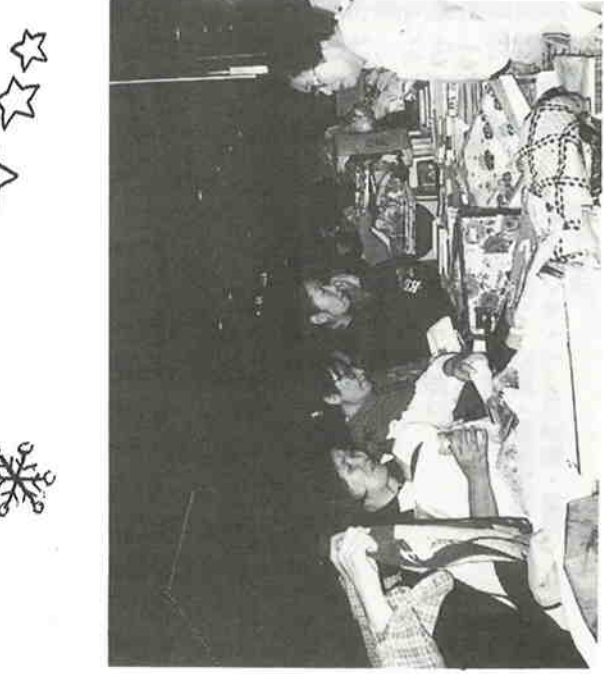
神樹の会会報

No. 49 平成 11 年 12 月 20 日
 発行所：神樹の会
 発行人：宮脇 テル子

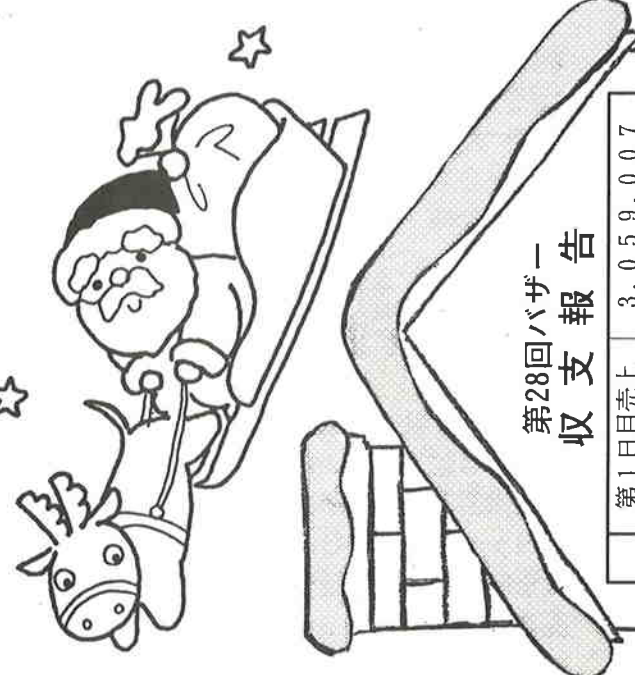
本部事務所 (六甲作業支援センター内) ☎821-1533
 〒657-0037 神戸市灘区備後町3-2-22
 福社の店 “いたやど” ☎733-2477
 〒654-0022 神戸市須磨区大黒町2-2-12
 明芳デザイナービス ☎735-8835
 〒654-0024 神戸市須磨区大田町6-4-4
 六甲作業支援センター ☎821-1533
 〒657-0037 神戸市灘区備後町3-2-22
 たおじ作業所 ☎987-2532
 〒651-1312 神戸市北区有野町有野白原3689
 垂水作業支援センター ☎782-9675
 〒655-0006 神戸市垂水区本多町7-2-3
 ゆめの作業所 ☎578-3539
 〒652-0041 神戸市兵庫区湊川町8-4-10

第28回 チャリティバザー あたためい贈り物を未来へ

第28回神樹の会バザーが10月27、28日にハーバーランドスペースアターにて盛大に開催されました。たくさんの方々から温かい心をいただき、2000年に向かって飛躍していききたいと思えます。バザーの収益金は各事業所の活動を支え、また、重度障害者施設建設のために積み立てられます。皆様のご支援とご協力に心より感謝いたします。



▲あれがいかいかな、これがいかいかな... (会場風景)



第28回バザー 収支報告

収入の部	第1日目売上	3,059,007
	第2日目売上	2,228,525
	会場募金	9,454
	寄付金	1,146,376
	委託より	224,780
	計	6,668,142
支出の部	会場使用費	309,960
	会場設営費	523,015
	印刷費	121,350
	一般物品費	74,324
	材料費	82,478
	通信費	126,710
	事務費	42,341
	交通費	139,730
	雑費	225,566
	計	1,645,474
	差引収益	5,022,668円

お知らせ

市長表彰・理事長感謝状受賞おめでとうございます

11月9日に神戸国際ホールで行われました平成11年度神戸市社会福祉大会におきまして、次の方々が神樹の会推薦により市長表彰と社会福祉協議会理事長感謝状を受けられました。

市長表彰 朝日多光 (社会福祉事業協助者)
 理事長感謝状 (奉仕活動の部)
 西垣幸夫 日高美恵子 松岡幸代 (敬称略)

感謝

平成11年7月から11月までに2名の匿名の方より尊いご寄付をいただきました。

第7回 ゆうすい希望展

日時：平成11年12月21日(火) ~26日(日)
 午前11時~午後6時 (最終日 午後5時まで)
 場所：ギャラリーミウラ 神戸市中央区中山手通1-8-19
 ☎391-2665

ヤング フェスティバル

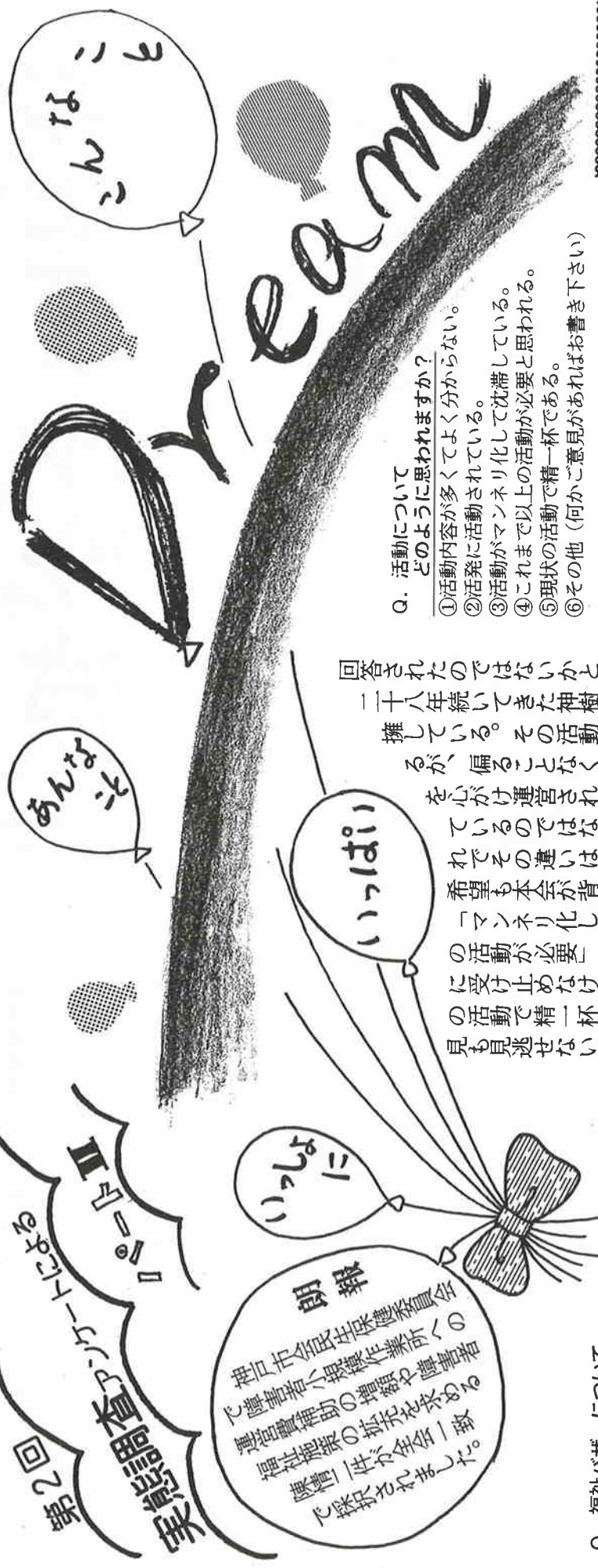
日時：平成12年2月20日(日) 午後1時~午後4時まで
 場所：しあわせの村 研修館大ホール
 参加費：500円

新年会

日時 平成十二年一月十三日(日) 午後二時三十分より
 場所 神戸ハーバーランド ニューオクタニ 五階
 楽しいひとときを過ごしませんか。多数のご参加をお待ちしています。

介護保険について

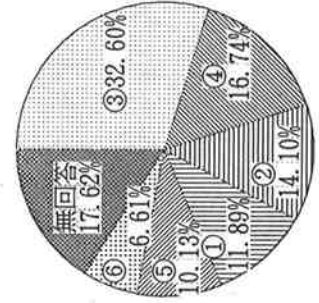
十二月十五日(水)午前十時より心障センター三階に於いて須磨区福祉部長室井恭子様より介護保険についての講演がありました。



前号に続いてアンケート結果よりパートIIをお知らせします。神樹の会の活動について、またこれから会の進む方向を会員の方々と一っしょに考えていきましょう。

Q. 活動についてどのようにならわれますか？

- ①活動内容が多くよく分からない。
- ②活動に活動されていく。
- ③活動がマンネリ化して沈滞している。
- ④これまで以上の活動が必要と思われる。
- ⑤現状の活動で精一杯である。
- ⑥その他(何かご意見があればお書き下さい)



回答をいただいた会員の皆様がどのような活動を望んでられるのかわからないが、何か違った活動があれば何かも解決するかと期待感を持って

回答されたのではないと思われる結果が出ている。二十八年続いてきた神樹の会は会員数約八百人を擁している。その活動も内容はその時期で異なるが、偏ることなくいつの時代にも恒に中庸を心がけ運営されてきたからこそ今に続いていけるのではなからうか。障害はそれぞれでその違いは大きい故に、一人一人の希望も本会が背負いきれないくらい多い。「マンネリ化しているのだからこれまで以上の活動が必要」という厳しい意見も真摯に受け止めなければならないが、「現状の活動で精一杯である」という現場の意見も見逃せない。

Q. 福祉バザーについて

- ①会員が無理をしない範囲で続ける
- ②大きな財源であるので頑張っけて続ける
- ③会員の負担はあるが啓発活動として続ける
- ④会員の負担が大きいのでやめた方がいい
- ⑤その他

無回答 計 (複数回答)

① 52.80%
② 16.74%
③ 12.70%
④ 7.05%
⑤ 5.29%
無回答 8.81%
計 103.52%

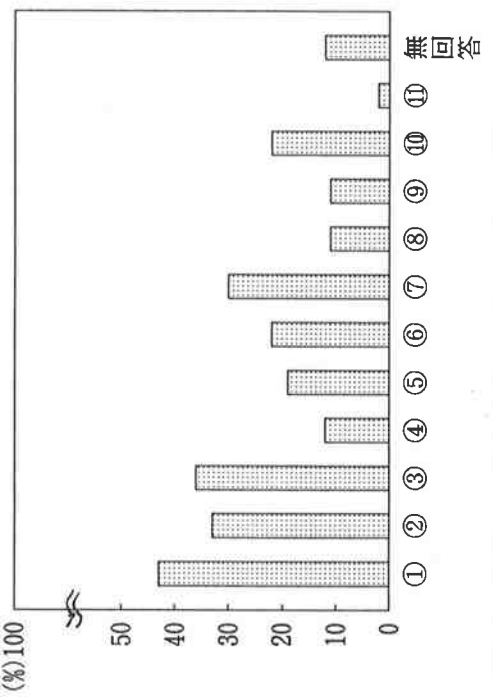
他の歳入の意見

- ・物品販売
- ・寄付など
- ・企業から寄付金を集める。
- ・会費だけでよい。
- ・年会費を増やす。
- ・企業の寄付や外部の働きかけで1口いくらかという形で会員(障害者の父母以外)を募る。

Q. 今後どのような方向に進めていくつもりですか？

- ①療養施設建設
- ②神樹の会の社会福祉法人化
- ③24時間一時保護要望
- ④医療体制の強化
- ⑤福祉ホーム設立
- ⑥デイサービス施設
- ⑦デモンストラティブ施設
- ⑧各種相談・情報提供
- ⑨ふれあい・交流・機能訓練など
- ⑩ボランティアの育成

本会の運営は、会費や寄付金の他大部分がバザー収益で賄われ、バザー収益の中から毎年重度障害者施設設置基金へ資金を積み立てている。バザー終了後毎回継続が危ぶまれる意見が出ているのでアンケートで広く意見を頂戴した結果、上記のように約八割の方々から「無理をしないでがんばって続ける」という前向きな回答をいただいた。また他の歳入の方法を設問したところ上記のような回答があった。



この設問は神樹の会をどのように進めていったらよいか。会員の方々は何をいちばん望んでいるのかを問うている。平成五年に行った美態調査と比較してみると結果はほとんど変わっていない。前回の設問になく今回の調査ではじめて登場しているのは本会の「社会福祉法人化」である。療養施設を希望するが親が元気な間は手放したくない気持ちが多く、親が介護に疲れた時また家族の用事の時に、難しい手続きなしにお願いできる二十四時間一時保護あるいはショートステイがほしいというのが本当の希望ではないかと思われる。

よい方向付けの提案を

かつて卒業生のために六甲作業所、垂水作業所を立ち上げ西部生活訓練部(屋敷園) 東部サービス、明芳サービスを用意することができたが、今は規制があるので残念ながら現在の任意団体である神樹の会では会員の方々が希望する事業を何ひとつも進めることはできない。どうすればよいのかを多くの方々のお知恵をいただき、よい方向に進めるためにこのたび特別委員会が発足した。どうかこの委員会からよい方向付けの提案がなされることを祈るのみである。

こころ癒されて...

十二月二日のOB懇談会で、六甲病院チャプレンの沼野尚美先生から「いやされる人とかかわり」と題してお話をいただきました。ホスピスで人生の最期を迎えようとしている患者さんの心のケアという重い内容でしたが、先生のお人柄と時には軽妙にユーモアのある患者さんのお話等をして下さったので、泣いたり笑ったりしてあっという間に時間が過ぎ、あとは心にポツと温かいものが残りました。続いてレストランで和のオードブルに洋のコースという自先の変ったとてもおいしいお料理をいただき、ハートもお腹も大満足の日でした。

「三年間の友生生活」

松井 恵

友生養護学校高等部の三年間は思い出がいっぱいあります。初めて友生にきたときはすくすくキドキしていました。一週間で学校生活に慣れそれからとても楽しく過ごせたところ思い出しています。一年生の頃は何もわからなかったし、少し抵抗があって学校に行きたくなかった私がいづの間にかいろんなことがわかっていきました。今から思えば先生の名前とか生徒の名前とか覚えるのが大変だったなあ。高二の時は充実していたという普通の生活してただって感じあまり覚えていないのが私らしい...

そして高三になった今は？ 今年は大変な年だったような気がしています。調子が悪かったりしたけど今は順調です。二学期には私の詩「未来の地図」が文化祭のテーマソングになったのがいちばんの思い出だと思います。あと少しの間ですが何をしても楽しもうかと思うほどいろんなことがしくて、今は活動しまくっております。後悔のない最後の学校生活はきっと忘れることができない思い出がいっぱいになると思います。

訃報

- 平成十一年七月から十一月までに次の会員の方々が亡くなりました。心よりお悔やみ申し上げます。
- 石黒良康様 (昭和五十四年度垂水養護学校卒 石黒道規さんの父親)
 - 昭和六十三年から平成五年まで本会の会計監査を担当して下さいました。岡 慶様 (平成六年度垂水養護学校卒 岡幸代さんの父親)
 - 北川能章様 (昭和六十三年度垂水養護学校卒)
 - 中田真由美様 (昭和五十七年度垂水養護学校卒)



今年も残すところあとわずかになりました。会報四十九号をお届けします。夢と希望のもてる二〇〇〇年になればとの思いで作成しました。ご協力下さった皆様へ心よりお礼申し上げます。

(肝 岡 福田 林 山 日 高 矢野 小野 大住 山内 宮脇)

神樹の会報

No. 48

平成 11 年 7 月 15 日

発行所：神樹の会
発行人：宮脇 テル子

本部事務所 (六甲作業支援センター内) ☎821-1533
〒657-0037 神戸市灘区備後町3-2-22

明芳デイスーパービス ☎735-8835
〒654-0024 神戸市須磨区大田町6-4-4

たおじ作業所 ☎987-2532
〒651-1312 神戸市北区有野町有野字白原3689

ゆめの作業所 ☎578-3539
〒652-0041 神戸市兵庫区湊川町8-4-10

福祉の店“いたやど” ☎733-2477
〒654-0022 神戸市須磨区大黒町2-2-12

六甲作業支援センター ☎821-1533
〒657-0037 神戸市灘区備後町3-2-22

垂水作業支援センター ☎782-9675
〒655-0006 神戸市垂水区本多町7-2-3

第28回 総会

みっめあり目
ささえありき
かばいあり心



サービスの質の向上を目指して

神戸市保健福祉局障害福祉部部長 藤井 良三

障害者をはじめ全ての人々が尊敬を持って、その人らしい自立した生活を送れるよう、厚生省では社会福祉基礎構造改革をすすめています。例えば、措置制度から利用制度へと変革され、利用者が自由に施設を選択できるよう、またそれぞれのサービスの質的向上が求められてきます。

神戸市でも、意思能力が十分でない人の権利を守り安心できる暮らしを支援する「こうべ安心サポート相談所」を開設しました。また七月には、障害者施設の製作品を展示・発売する場として「神戸ふれあい工房」を神戸ハーバーランドに開設します。その他、昨年度開設しました西部在宅障害者福祉センターに続いて、各種福祉施設を順次整備し「障害者保健福祉計画」の達成に努めてまいります。最後に、来年度から介護保険がスタートいたしますが、是非「出前トーク」を活用し、介護保険を皆さんで勉強していただくようお願いいたします。

「自立活動」の教育課題に向けて

神戸市立友生養護学校長 田中等

学校現場において二〇〇二年の学校五日制に向けて指導要領が改正された。「養護・訓練」という名称が「自立活動」と変わり、「総合学習の時間」が創設される。個に応じた指導の工夫改善を一層進め、軽度の子の教育活動をいかに進めるかなどこれから取り組まねばならぬ問題・課題が一杯ある。現在の両校の共通課題として

- ① 医療的ケアに対する対応 (マニュアルがほぼ完成)
- ② 進路の確保
- ③ 高等部訪問教育の充実

などがあげられる。今後とも課題解決のためにも、深いご理解と温かいご支援をお願いします。

第28回神樹の会定例総会



福祉の充実を...

神戸市議会議員 加納 花枝

高齢者福祉も障害者福祉も別にして取り組むのではなく、誰もが安心して暮らせるような町、すべての人が神戸に住んでよかったといえる町にしたいと思っています。

重点目標

1. 会員相互の絆を強め、共に生きる輪を広げよう
2. 身体障害児(者)の地域社会への参加と交流
 - ① 事業の確保・拡充
 - ② 療護施設の早期実現
 - ③ 重症心身障害児(者)施設の建設促進
3. パザー活動の発展と充実

地域で当たり前の人として生きていくサポートを

神樹の会会長 宮脇 テル子

来年四月には介護保険の導入、社会福祉基礎構造改革など、近年、社会福祉の情勢は大きく変わりつつある。措置制度から契約選択へと変わるといこと。供給側からの解釈でなされてきた福祉形態が利用者本意でサービスがなされるようになる。この流れの中で重度障害者の方々が、普通の人と同じように当たり前の人として地域で生きていくために環境づくりやサービスの充実に向けて進めていきたい。親としての発想と賛助の先生方の意見をいただきながらバランスのとれた会として歩んでいきたい。

感謝

平成十一年四月及び六月に、次の方々より尊いご寄付をいただきました。

- ・ワークホーム明友様
- ・友生養護学校様
- ・垂水養護学校様
- ・友生PTA様
- ・県肢体不自由児協会様
- ・高内恒夫様

総会において左記のような意見をいただきました。

意見交換

- * 垂水作業支援センターの予算を見ると事業費が少ないように思う。作業型サービスになったので、利用生にはいろいろな経験をさせてやりたい。
- * 療護施設建設について、具体的な動きはどうなっているのでしょうか。法人化しないとサービスが作れないのであれば、神樹の会としてどんな対策を考えているのか。
- * 能力に応じた進路の開発が必要ではないか。
- * 卒業後の受け皿がたくさんあればサービスが必要としている人が行ける。行政のすき間を埋めるサービス(お風呂サービスショー、トステイ等)を行えば...
- * 大阪南港で毎年四月に福祉機器の見本市が開かれているので見学に行ってはどうか。
- * 現状では(法人でない)サービスは作れないので何か他の方法を考えていかないといけない。
- * お風呂サービスは、できてもすぐに希望者で満員となり順番待ちで利用できない。地域のお風呂屋さんを利用させていただいてボランティアをお願いして...という方法もある。
- * 障害者全般のネットワークが必要。区ごとに在宅の美態を知れば、もっときめ細かいサービスができると思う。
- * 機械浴は設備がたいへんで、入浴前の検診をする看護婦さんの常駐があるのでサービスはむずかしいと思う。
- * アンケートにもあるように、療護施設の建設を第一に考えるべきではないか。

会員総数	830
出席者	67
出席委員	529
計	596